



〈和泉短期大学の学生を支える6つのサポートセンター〉

CONTENTS

2017年度 聖句

「あなたがたの光を人々の前で
輝かしなさい。」

(マタイによる福音書第5章16節)



学校法人和泉短期大学 2018年度事業計画	2
在学生の活躍	3
卒業生の活躍	5
職員退任あいさつ	5



2018年度 学校法人和泉短期大学事業計画

理事長 深町 正信



今年度は一言で言えば、あまり大きな計画を立てることをせず、「大学、短期大学の未来、冬の時代」と言われる時代に対応することを最優先して2018年度の事業計画を堅実に実施していきたいと思えます。

2018年度、日本は18歳人口の急激な減少と少子・高齢化社会を迎えています。そして、日本の大学、短期大学、専門学校への受験人口の数が2040年には約40万人程度が減少すると予測されています。

しかし、授業料の安い国立大学、公立大学、都内の有名私立4年制大学への入学希望者は昨今の女性の高等歴志向の高まりもあり、むしろ、受験者が増加すると予測されています。したがって、これまでも増して今年度の和泉短期大学の運営、経営の在り方は非常に厳しくなります。本学の教育の健全な存続のため、今後を予測して課題に取り組みねばなりません。

そもそも、日本に於ける短期大学の誕生は1950年、新しい制度として発足しました。第二次世界大戦後の日本の急激な経済成長に伴い、より働き手が多く求められるようになり、更に、女性の高等歴志向と相俟って、和泉短期大

学も大きく伸びてきました。その結果、これまでの短期大学の存在は、4年制大学とともに、戦後の日本人女性の教育文化の普及と向上に多大な役割を果たしてきたことは誰しもが認めるところと思われれます。特に、日本に於ける女子のための短期大学は、その多くが2年間の集中型の教育をめざすもので、4年間の大学教育にも匹敵する内容のあるものでした。特に、幼児教育、医療、福祉の分野では、これまでに果たしてきた役割は実に大きく、多様であり、又、その地域に密着した幼稚園教諭、保育士、栄養士、介護福祉士、看護師等の専門的職業人の養成に大きく貢献してきました。そういう意味に於いても、わが国のそれぞれの地域の文化と産業の向上と発展に大きく貢献を果たしてきました。

しかし、日本にある短期大学の過半数は毎年、受験者の定員を充足することが出来ず、平均するとその全体の67%の短期大学が定員の厳しい状況を、ここ数年間にわたって続けています。その結果、短大として、充足して存続するものと、定員割れを起こす短期大学との二極化が起きています。更に、近年では短大よりも、4年制大学の高等教育への進学を希望する者の数の方がむしろ徐々にではあるが増加して来ているという事態も起きています。このような意味でも、わが、和泉短期大学を含めて、日本のすべての短期大学にとり、大きな転換期を迎えていると思われる。4年制大学のみでなく、特色ある専門学校と競合の時であり

日本の大学の入学定員は文部科学省によると、2016年4月時点で約59万3千人でした。他方、18歳人口の減少に伴い各受験校の定員割れが広がっており、現在では私立大学の約40%が、その定員を満たしていないとされています。

さて、これまでの短期大学の特徴としては、第一に、学位が取得できる短期高等教育機関、教養教育と専門教育のバランスの取れた高等教育機関、職業能力を育成する高等教育機関、小規模で済みの細かい教育を行う高等教育機関、アクセスしやすい、身近な高等教育機関、教育の質が保証された高等教育機関として実績を残してきました。

そこで、私たちは、和泉短期大学の今後の在り方を抜本的に、今こそ、真剣に考えてみる必要があります。こういう意味からも、今年度はまさに根元を養う冬の時代とも言わなければならない時代を迎えていると言っても決して過言ではないのです。

わが和泉短期大学を含めて一部の短期大学の存在意義は見方によつて、むしろ、高まってきており、女性の社会進出、政府の働き方改革の実施等により、一層多くの保育園の必要性、資格をもつ保育者、社会福祉士、介護福祉士等の養成が緊急に強く求められています。特に、保育、社会福祉の分野は、むしろその働き方やその待遇の改善、環境整備等が早急に実現されようとしているのです。

このような現状認識に立ちつつ、わが和泉短期大学の今年度の事業計画としては、例年のように「地

元密着型」と「実力養成型」の短期大学として、これまでと同様に、良き専門職としての保育者、様々な社会福祉施設等で介護福祉士として働きたいという人の養成に全力で取り組んでいきたいです。保育、社会福祉、介護、医療の分野に、政府としても様々な改革、待遇の改善等の具体的政策を提言しているところですが、和泉短期大学の卒業生たちがこの地元、神奈川県を中心として、特に、相模原市を中心として良き保育士、温かい介護福祉士、幼稚園教員として活躍をされていることは何よりも大きな喜びであり、誇りでもあります。

2018年度の事業計画としては大きく分けて四つの課題を中心として具体的に検討しつつ、和泉短期大学の運営、経営方針を進めたいと考えています。第一に、専攻科介護福祉専攻の存続については、抜本的に検討するということです。20名の入学定員ですが、この数年の入試の受験者の実績を見ますと、厳しい状況にありまます。これでは和泉短期大学の財政全体を圧迫することになりますので、むしろ、児童福祉の特色をもつ和泉短期大学のカリキュラム、また、教育全般の中で、何等かの形でこれを生かす方向で検討する必要があります。今後の存続をどうすべきかを、できるだけ早く決断し、それを実行することとしたいです。

第二に、入試広報活動の再点検とその充実という課題です。このためには現在まで9回にわたり実施してきた相模原市内の高等学校長との教育研究会の持ち方と更な

る信頼関係の強化と構築を推進していくという課題であります。つまり、地元の高等学校への広報活動の新たな見直しとその充実です。その上で、更に、入学試験の在り方、入試時期の再検討、学生定員と教職員の適正な人数の検討、教育の質の向上、地域に役立つ具体的な研究と啓蒙パンフレットの発行、本学のWebの充実、動画のUP、SNS対策（Line、Twitter）の強化等の課題の推進であります。

第三に、地元保育園、特に、和泉保育園との正しい協力関係を構築し、その当面している諸問題の解決を少しでも前進させるという取り組みです。現在の園長は本学出身の方であり、現在、保育園の理事、評議員には、本学の現任教職員の中から2名を推薦していることでもあります。これも、この保育園の移転、新園舎建築の際には和泉短期大学の校地の一部を提供していることから、今後はもっとその経営と運営とを積極的に支援して、その責任を果たし、その協力関係を深化させていく必要があると考えています。つまり、両者の責任ある関係を正しく構築し、両者の関係を深めていきたいと願っています。

第四に、今年度は財政的には厳しい状態がまだ続くものと思われまますので、「出来るだけ出るを制し、入るを計る」ところの健全な会計の執行を厳しく行っていきたく願っていますので、関係者の皆様方の一層のご理解とご協力を心からお願いを申し上げます。

TOPICS

クリスマスイベント

●同窓会いずみからペンライトの寄贈

贈呈式が行われ、佐藤守男学長、西田恵一郎チャプレン、宗教委員 片山知子教授が代表して、遠藤陽子同窓会いずみ会長よりLEDペンライト180本の贈呈式が行われました。

同窓会いずみ役員の皆さま、ありがとうございます。

クリスマスツリー点火祭では学生全員が寄贈されたペンライトを使用いたしました。ツリー点火祭の他、様々な学内行事の時に大切に利用させていただきます。



●はっぴいクリスマスコンサートを開催

2017年12月16日(土)、和泉クラーク・ホール(3号館)において、子育てひろば「はっぴい」と和泉短期大学宗教部共催のクリスマスコンサートを開催しました。

当日は、はっぴい参加親子24家族74名と、入学前教育プログラムのひとつとして来年度入学予定者74名、地域から48名の方にご来場いただきました。

学生による絵本「うまのクリスマス」の読み聞かせ、「ハンドベル」履修学生によるハンドベル演奏、本学オルガニスト石井三枝子先生によるパイプオルガン演奏、学生聖歌隊による賛美など盛りだくさんの内容でご来場の皆さまに楽しんでいただくことができました。

コンサート終了後に、参加されたお子様たちには、サンタクロースからプレゼントが贈られました。

— 多くの方のご来場、誠にありがとうございました。 —



●2017年度 学校法人和泉短期大学 第15回クリスマスフェア開催

2017年12月15日(金)「クリスマスフェア」を開催しました。

寒い中、朝早くから1号館自動販売機前には、ホットドリンク(無料)を求めて長蛇の列ができました。

キャンパス内やスクールバスに掲示した「フェアの案内ポスター」を見て学生はこの日を楽しみに待っていてくれたようです。

フェアの主な内容

- ・学生食堂：100円ランチ(クリスマスチキン南蛮 又は カレーライス)
(200食限定) ~食事をした人は全員にミニケーキをプレゼント♪~
- ・コンビニ：全品20%OFF! ~「名物ガチャポン! 外れなしのくじ引き」付き~
- ・自動販売機：無料ドリンク200杯限定(カップ式 ホット&アイス飲料)



学生たちの声

・チキン南蛮がクリスマスリース形に! とってもオシャレ。・寒い朝にはホットココア! 心も体も温まります。無料最高です!

・可愛いのでクリスマスチキンをSNSにアップして他の大学の友達にも見てもらおう! インスタ映えるし。

・ガチャポン目的でお菓子をたくさん買いだめしちゃいました。・今日は特別に「クリスマスチキンとカレー」2つも食べてしまいました。

2014年5月から始まったフェアもこれで15回目となりました。今回のフェアの目玉は、クリスマスリースの形を模した「クリスマスチキン南蛮」。毎回好評のため10時から販売した食券は11時には売り切れてしまいました。

今回のフェアも大好評のうちに終了しました。2年生の学生にとっては最後のフェアとなりましたが、とても楽しんでいただいたようです。2018年もフェアを予定しています。楽しみに待っていて下さい。

2018年度クリスマス礼拝

2017年12月18日(月)和泉クラーク・ホールにおいて、本学学生および教職員とともに、救いの主イエスキリストのご降誕を祝うクリスマス礼拝が行われました。

ユアチャーチ(町田市)の永原創牧師をお招きして「インマヌエル」と題して説教をしていただきました。礼拝では、ハンドベル履修生によるハンドベルや学生聖歌隊の賛美が行われました。



2017子ども未来ワールドin光が丘に参加しました

「2017子ども未来ワールドin光が丘」が2017年11月23日(木・祝)淵野辺公園(相模原市)で開催されました。早朝の雨も午後からは晴れ渡り大勢の家族が参加され、各種のコーナーやステージ上のイベントを家族で楽しんでいかれました。

和泉短期大学のコーナーは、指輪づくり、ティアラのリースづくり、ペンダントづくりを行いました。また、11月は児童虐待防止推進月間のため、学生手作りのオレンジリボンの配布を行い「児童虐待防止」を呼びかけました。

女の子も男の子も、学生と一緒に熱心にカラフルな指輪とかわいいティアラのリース、ペンダントをつくり、すぐに身につけていました。学生(1年生)は、「来年もぜひ参加したい!」と意欲を表していました。



近隣自治会等に非常用乾パンを提供しました

2018年1月14日(日)本学芝生多目的広場内で青葉二丁目自治会の賀詞交歓会(どんどこ焼き)が行われました。

非常用乾パンの入れ替え更新に伴い、本学から青葉二丁目自治会に30ケース(720缶)を提供し、会場で自治会員に配布されました。

本学と青葉二丁目自治会とは「防災倉庫の設置及び共同利用に関する覚書」を締結し、毎年避難・防災訓練を合同で実施するなど密接な連携を行っております。

非常用備蓄品の「乾パン」を学生に配布

非常用備蓄品の「乾パン」を災害時を想定して非常食を体験してもらおうと学生に配布しました。乾パンはそのまま食べても美味しいですが、更に美味しく食べられるよう「乾パンのアイデアレシピ」も添えて配布しました。

早速、学生ホールで乾パンを食べている学生も見受けられました。またアイデアレシピを見て「コーンスープに入れると美味しいそう!」と話している学生もいました。

本学では災害時に備え、学生・教職員のために非常用備蓄品(マジックライス、飲料水(ペットボトル)他)を備蓄しています。また今年度防災井戸を設置し、飲料水と生活用水を確保できるようにしました。

神奈川県横浜市中区寿地区センター第44次越冬実行委員会に乾パンを提供しました

本学の非常用備蓄品である「乾パン」の入れ替えに伴い、2017年12月26日(火)に土橋事務局長と山中広報渉外ユニット主任が日本基督教団神奈川県横浜市中区寿地区センター越冬テントの主宰三森先生に乾パンを20箱(480缶)お届けしました。

本法人の設立に寄与頂いたバット博士、クラーク博士、ミルス博士の方々は、戦後の日本国民の救済物資としてアメリカ、カナダ、中南米諸国から船便で横浜港に搬送された物資を、日本全国の配給に尽くされました。

現代の給食の基になったのがララ物資であり、横浜はゆかりの地区です。このララ物資が本学の原点とも言えます。

乾パンが寿地区の移住者の方々の越冬に寄与できることをお祈りいたします。



配布した「乾パン」と「乾パンのアイデアレシピ」



卒業生の活躍 (第19回)

学校法人川崎学園 つくしの幼稚園(相模原市)

2011年卒業 鈴木あゆみさん

就職してから約7年、子どもたちの「出来た!」をたくさん見てきました。新人の頃はなかなか保育が上手に出来ず、どうしたらいいのか悩むこともありました。でも、どんな時も「あゆみ先生!」と呼んでくれる子どもたちや保護者の方々がいることに支えられ、子どもの成長を実感できることと同時に自分自身も成長できるようなこの仕事を幸せに感じるようになり、今は幼稚園教諭という仕事に誇りを持っていきます。子どもはもちろんのこと、常に保護者や職員も一緒に成長できるにはどうしたらいいかを考え、よりよい環境をつくれるよう試行錯誤をしています。



10年ほど前、オープンキャンパスで生き生きとしている先輩方や、熱心に和泉のよさを伝えて下さった先生に出会い、和泉への入学を決めました。元気で明るい和泉の雰囲気が好きでした。目指すゴールが同じなので、すぐに友だちと打ち解けられます。卒業してからも大切にしたいと思える仲間にも巡り合えました。実習は大変ですが、終えたあとの達成感や、子どもが成長していく姿を実感できる喜びは、授業では得られません。改めて保育者になりたいと確信を持つことができ、共に乗り越えてきた仲間との繋がりの強さは和泉でしか味わえないものだったかなと思います。和泉で学んでいたことが今の私に繋がっていると強く感じています。

学生のとときにしっかりと勉強しておくことはもちろん、いろいろな園を見て経験し視野を広げておくことで、自分の将来の選択肢が広がります。

和泉の先生方はとても優しく、どんな時も相談に乗ってくださる背中をおしてくださいます。和泉に出会い幼稚園教諭になれたことにとても感謝しています。いろいろな経験を積み、自信に繋がります。皆さんが充実したキャンパスライフを送れることを願っています。

2017年度 第2回和泉プレカレッジを開催しました

2018年2月3日(土)相模原市内の保育者を目指す高校1・2年生を対象とした公開授業「和泉プレカレッジ」を開催しました。93名の生徒さんに参加して頂きました。

「子どもの食事・ミルクから幼児のお弁当まで」

(非常勤講師 及川 静)

「子どもへの虐待をなくそうー児童虐待の防止と保育者の役割」

(入試広報部長 鈴木 敏彦)

授業後は、学生食堂でランチをした後、修了証を交付しました。



学修奨励奨学金、保育士奨学金、介護福祉士修学資金

2017年度前期 学修奨励奨学金奨学生一覧

根岸 遼/大谷 美琴/杉崎 陽菜/池田みさと
山口 真依/加藤なつみ/田代 茜/鈴木 亜実
藤巻 奈々/渡邊 果穂/富樫 紅実/橋本 玲菜

2017年度 保育士修学資金(決定者)

横浜市 和田詩桜美/沢田 桃華/萩野 サハラウオーターズ
熊谷 有紗
神奈川県 北島 歩/山口 涼香/丹 由梨絵

川崎市 藤田有希絵/阿久津京香

東京都 橋本みなみ/野澤 琉斗/河手りおん

秋田県 富樫 紅実

2017年度 介護福祉士修学資金(決定者)

神奈川県 筑田ころろ/高田 麻衣

退任あいさつ

広報渉外ユニット 大嶽 陽子



2年3ヶ月という短い期間でしたが、何の知識もスキルもない私を温かく見守って下さった教職員の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。また仕事を

通して学内外の様々な方と関わることができ、貴重な経験となりました。何より、オープンキャンパススタッフなどの学生と関わる中で、仕事へのやりがいを感じる事が多々ありました。そう思わせてくれた学生のみんなに感謝です。

学生たちの今後の活躍を願い、また誇りを持って学生を育む和泉短期大学が、これからも「児童福祉学科」としてその歴史を重ねていくことを願っています。本当にありがとうございました。

人事

次期学長の選任

2017年度第2回理事会(2017年10月27日(金)開催)

■学長 佐藤 守男(重任)

任期 2018年4月1日~2022年3月31日(任期4年)

退職

(2017年12月31日付)

■大嶽 陽子 広報渉外ユニット

2017年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年に東京都世田谷区中町でバット博士記念養成所を開設し、同年5月現任訓練講習会が開催されたことに始まります。2017年5月で創立61年を迎えました。教育の充実を図り、学修環境整備、施設維持整備を目的に、2017年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。皆様には出費多難の折と存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●募金対象事業

1. 震災・災害対策(建物非構造物(天井)改修工事)
2. 災害対策用井戸設置(いこいの広場に設置)
3. その他教室環境改善費他

●募金目標金額

10,000,000円

●募金募集期間

2017年7月 ~ 2018年3月

寄付者一覧(敬称略) <2017年11月1日~2018年2月23日>

【特別寄付金】長田 清/永田 愛/川井 俊幸/深町正信・順子/志村 美佐子/土橋 正文/長友 潔/大塚 真光子/
石黒 嗣幸/井上 容子/高田 憲子/石川 佳代/篠塚 和典/北原 歌子 以上14件 275,000円

●募金金額

1.個人 1口 5,000円 2.法人 1口 10,000円

●所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)については、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

●法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて「受配者指定寄付金」として全額損金に算入することができます。詳しくは、下記あてにご連絡ください。

●募金問い合わせ先

学校法人和泉短期大学
経理・施設ユニット 042-754-1133

IZUMI
JUNIOR COLLEGE

学校法人
和泉短期大学

「国際ソロプチミスト相模」2017年度助成金贈呈式

2018年2月15日(木) 相模原市民会館会議室にて、『国際ソロプチミスト相模』(会長 山田洋子氏)から和泉短期大学、神奈川県立相原高等学校、相模原市立共和中学校の3校に対し助成金の贈呈式がありました。

国際ソロプチミスト相模から本学のハンドベルクワイアの活動に対しての助成金は、2005年度から始まり本年度で13回支援していただいています。



読売ジャイアンツ元コーチ篠塚和典さんより寄付金贈呈

篠塚和典さんより本法人に対し、指定寄付金をいただきました。

2018年1月21日(日)、本学において篠塚さんが町田市にある児童養護施設バット博士記念ホームの子どもたちのために第12回野球教室を行いました。

その際、法人理事長室において、篠塚和典(スマイリングパートナーズ代表)さんから、本法人の「教育環境充実資金」に対して指定寄付金を戴き、土橋正文事務局長が受け取りました。

この貴重な寄付金を本学の教育環境整備充実のために使用させていただきます。



篠塚和典さん 卒業生 寺内崇幸選手 土橋正文事務局長